令和7年度感染症対策研修会
令和7年9月19日

【資料3】高齢者施設で流行する感染症について

【本日、お話する内容】
1　高齢者施設の特徴
2　高齢者施設で流行する感染症
3　基本的な感染対策
4　質問コーナー

香川県中讃保健福祉事務所
保健対策第一課

1　高齢者施設の特徴

高齢者の特徴
・免疫機能が低下
・症状が非典型的
・複数の症状や病気を抱えている
・栄養状態が低下しやすい
・ADLの低下や円背等により受診やレントゲン検査が受けにくい。

環境の特徴
・施設では毎日、長時間にわたり集団で生活する。
・おむつ交換や入浴介助など濃厚な接触の機会が多い。
・認知機能の低下等により正しいマスクの装着や適切な手洗い等基本的な衛生対策が十分に行えない。

集団感染を起こしやすい！！発見しづらい！！
発生時には重症化しやすい！！

2　高齢者施設で流行する感染症

★感染経路別　流行しやすい感染症の例

飛沫感染

空気感染

接触感染

感染者が咳やくしゃみをした際に口から飛ぶ、病原体が含まれたしぶき(飛沫)を、近くにいる人が吸い込むことで感染すること。	感染者の口から飛び出した飛沫が乾燥し、飛沫核となって空気中を漂い拡散、その病原体(飛沫核)を吸い込んで感染すること。	直接的な接触によって感染する。(特に手指を介して)
インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症など	結核など	感染性胃腸炎、腸管出血性大腸菌感染症、疥癬、アタマジラミ、偽膜性大腸炎、帯状疱疹等

(参考)感染症分類について

感染症分類とは？
→感染症法において感染予防の観点から感染症を危険度別に並べた分類のこと。

	疾病名	
1類感染症	エボラ出血熱、ペスト　など	入院勧告就業制限
2類感染症	結核、SARS、鳥インフルエンザ(H5N1)　など	
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症(O157など)、細菌性赤痢など	就業制限
4類感染症	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、デング熱、日本紅斑熱、レジオネラ症　など	
5類感染症	百日咳、麻しん、風しん、梅毒、新型コロナウイルス感染症　など	

感染性胃腸炎と腸管出血性大腸菌感染症の違い

	感染性胃腸炎	腸管出血性大腸菌感染症
感染症分類	5類感染症（定点把握）	3類感染症
就業制限	なし	**あり**
原因	ウイルス性（ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルスなど） 細菌性（サルモネラ菌、カンピロバクターなど）	腸管出血性大腸菌（O157、O26、O111等）
感染経路	経口感染、接触感染、飛沫感染、接触感染	
潜伏期間	原因によって異なる （ノロウイルスは12～48時間、ロタウイルスは1～3日）	10時間～6日 （O157は3～4日）
症状	発熱、腹痛、嘔吐、下痢、血便など	水溶下痢便、腹痛、血便 溶血性尿毒症症候群、（稀に）脳症 （無症状者もいる）
（参考） 子どもの場合の登園の基準	嘔吐、下痢等の症状が治まり普段の食事がとれること	医師において感染のおそれがないと認められていること。 **（便検査で陰性が確認できるまで）**
接触者健診	なし	**職員、接触の多い方などに検便検査をお願いする場合があります。**

新型コロナウイルス感染症

原　　因：重症急性呼吸器症候群コロナウイルス２（SARS-CoV2）

潜伏期間：２～７日（中央値２～３日）

症　　状：発熱、倦怠感、頭痛、消化器症状、鼻汁、味覚・嗅覚障害　など

感染経路：飛沫感染、接触感染、エアロゾルによる感染

※密閉空間等ではエアロゾル感染により1mを超えて感染拡大の可能性あり

感染性のある期間：発症前から発症後５～１０日間

消毒方法：アルコール、次亜塩素酸ナトリウムでの消毒が有効

感染対策：５類移行後は感染対策の実施については個人・事業者の判断が基本

（参考）学校保健安全法施行規則の出席停止期間：

「発症した後５日を経過し、かつ、症状が軽快した後１日を経過するまで」

インフルエンザ

原　　因：インフルエンザウイルス

潜伏期間：平均２日（１日～４日）

症　　状：悪寒、頭痛、高熱（39～40℃）、全身症状、呼吸器症状、消化器症状

感染経路：飛沫感染、接触感染

感染性のある期間：発熱1日前から3日目をピークとし7日目頃まで

特　　徴：感染力が非常に強く、毎年11月～3月に流行

（参考）学校保健安全法施行規則の出席停止期間：

「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで」

感染性胃腸炎（ノロウイルス）

原　　因：主としてノロウイルス

潜伏期間：ノロウイルスは12時間～48時間程度

症　　状：発熱、下痢、悪心、嘔吐、腹痛など　など

感染経路：飛沫感染、接触感染、経口（糞便）感染、食品からの感染

感染性のある期間：症状がおさまった後も最大4週間程度は排便からウイルスの排出あり

消毒方法：塩素系消毒液または加熱消毒（85℃以上で1分間）が有効。

※アルコールによる消毒効果は弱いので注意！！

その他・・・結核について

香川県の令和6年の結核
新規登録者数は**80人**

○新規結核患者は、高齢者に多く、
およそ**6割が70歳以上**となっています。

○特に**若年の外国生まれの患者の割合が増加**しており、20-29歳の新規患者のおよそ２割を占めています。

○咳やたんが２週間以上続いたり、
微熱や体のだるさが続く場合は、
早めに医療機関を受診しましょう。

疥癬について

ヒゼンダニが皮膚に寄生することでおこる皮膚疾患です。
皮膚、衣類、寝具などを介して、**人から人に感染**します。

感染力が強い

	通常疥癬	角化型疥癬（ノルウェー疥癬）
主な症状	赤いブツブツ **疥癬トンネル** （手のひら、指の間・側面などによくみられる） 	**厚いあか**が増えたような状態
かゆみ	強い	不定
感染経路	皮膚と皮膚の直接接触 （まれに衣類や寝具を介して）	短時間の接触、落屑 衣類や寝具を介して

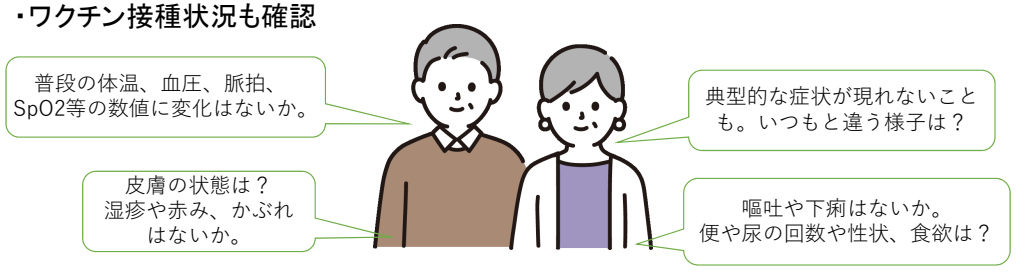
皮膚の状態をよく観察し、かゆみや皮疹が出た場合は、医療機関を受診しましょう。

引用：看護roo！「**疥癬**｜**動物寄生性疾患**③」、国立健康危機管理研究機構「感染症情報提供サイト　疥癬」

3　基本的な感染対策

★日々の感染症対策

①職員、利用者の健康観察
- ・食欲がない、元気がないなどいつもと違う様子はないか。
- ・毎日の検温（皮膚症状についても記録を）
  - ★普段の状態を知っておくことが症状の変化に気づく目安になる。
- ・通所利用者は同居者の健康状態等も把握
- ・ワクチン接種状況も確認



②利用者や施設の特性に応じた「感染症対策指針・マニュアル」の検討・作成

③物品の補充や管理（個人防護具、消毒用アルコール、嘔吐物処理セット等）

④標準予防策の徹底

⑤予防の啓発や研修の実施

⑥地域の感染症流行情報の把握

★ 早期発見・早期対応

①発生状況の把握、記録の確認感染

②感染拡大の防止

③報告・相談の実施

★ 振り返りと再発防止の取り組み

感染拡大要因の検証

代表的な消毒薬　※「次亜塩素酸ナトリウム」と「次亜塩素酸水」は別物です。

	次亜塩素酸ナトリウム	アルコール類（消毒用エタノール等）	第4級アンモニウム塩（塩化ベンザルコニウム等）
商品名	ハイター、ブリーチ、ピューラックス　など	ハンドスキッシュ、手ピカジェルなど	オスバン液、ウェルパスなど
消毒する場所やもの	・調理及び食事に関する用具（調理器具、歯ブラシ、哺乳瓶等） ・室内環境（トイレの便座、ドアノブ等） ・衣類、シーツ類、遊具など ・嘔吐、排泄物が付着した箇所	・手指 ・遊具 ・室内環境、家具等（便座、トイレのドアノブ等）	・手指 ・室内環境、家具等（浴槽、トイレのドアノブ等）
効果のない感染症		ノロウイルス、ロタウイルス、手足口病など	結核菌 ほとんどのウイルスによる感染症
注意点	・酸性物質（トイレ用洗剤等と混合すると有毒な塩素ガスが発生するので注意する。 ・吸引、目や皮膚に付着すると有害であり噴霧は行わない。 ・金属腐食性が強く、錆びが発生しやすいので、金属には使えない。 ・嘔吐物等を十分拭き取った後に消毒する。また、哺乳瓶は十分な洗浄後に消毒を行う。 ・脱色（漂白）作用がある	・刺激性があるので、傷や手荒れがある手指には用いない。 ・引火性に注意する。 ・ゴム製品、合成樹脂等は、変質するので長時間浸さない。	・経口毒性が高いので誤飲に注意する。 ・一般の石けんと同時に使うと効果がなくなる。

消毒薬の選び方

施設内で感染症が流行していない

施設内で感染症が流行している

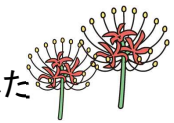
新型コロナウイルス感染症
インフルエンザ
RSウイルス感染症
溶連菌感染症
水痘　など

感染性胃腸炎　など

「消毒用エタノール」で共用物品の消毒

濃度70%以上95%以下のエタノールを使用する。

「次亜塩素酸ナトリウム」で共用物品の消毒

4　質問コーナー

ご清聴ありがとうございました